



NO. 184

2008. 10. 15.

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会

(別名 大阪市手をつなぐ親の会)

大阪市天王寺区東高津町 12-10

大阪市立社会福祉センターB 1 F

発行責任者 笹野井 庸夫

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

『知的障がい者の地域福祉ネットワークづくり』

西区社会福祉協議会

地域活動担当主査

越村真己子

八月初旬のある暑い日、西区役所の調理室では知的障がい者作業所の仲間達と高齢者食事サービスのボランティアさん達が大量のじゃがいも、人参、たまねぎを涙ながらに

西区においては高齢者部会、こども部会、障がい者部会がプラン推進実働部隊として活動しており、中でも障がい者部会是最も元気の良い部会であり、その機動力の中心は「そよかぜ」です。

(！) 黙々と切り分けていました。翌日に開催される『西区障がい者・児ネットワーク「そよかぜ」』(以下「そよかぜ」)主催の「ともに楽しもう障害がある仲間と！そよかぜまつり」で販売するカレーライスの下ごしらえ作業です。

西区ではこれまでも各障がい別の団体が様々な取り組みを進めてこられました。この「そよかぜ」の結成によって障がい種別を越えたネットワークづくりと相互理解、そして地域の方々の交流が一層深められつつあります。

「そよかぜ」は平成十八年、西区地域福祉アクションプラン障がい者部会の活動をきっかけとして、区内の障がい者・児関係の団体が声をかけあって立ち上がりました。西区社会福祉協議会(以下「西社協」としては事務局所在地として、皆さんの活動のお手伝いをさせていただいております。

「そよかぜまつり」ではカレーづくりやお菓子づくりなどを地域の方々と一緒に楽しんだり、「子育て交流会」では知的障がい者作業所がパンの販売を行い小さなこども達とも触れ合う機会を設けたり、となごやかな光景を目にする事ができました。

各区で取り組んでいる地域福祉アクションプランですが、

とは言ってもイベント時の目がまわるような忙しい状況

の中でお互いの理解がすんなりといかず、ついついきつい言葉が行き交ったりして、はたで見ているハラハラするところもあります。それでもそういう本音も言える雰囲気があつてこそ、お互いのつながりも濃くなつていくと感じています。

もちろん、その礎には障がいについての基本的な理解があることが大前提で、そういった啓発活動も区社協の役割であり、特に知的障がいの場合、それぞれの個性の差も大きいのでなおさらです。

それにしても、イベントや講座を開催すると多くの障がい当事者の方々が参加してくださいます。区内にはこんなにとくさんの知的障がい者の方がいらつしやうったんだな、とこれまでの認識不足が恥ずかしくなります。

どうしてもその存在が見えにくかった知的障がい者の方々が、地域の一員として「見える」存在となるように、これからはいろいろな場面を設定していきたいと思えます。

そして、そこから波及して、日常的に構えずに手助けをしたり、暖かく見守ったりが自然にできるような関係づくりのために、地域のいろいろな場面を機会として皆さんを引き合わせる仲人のような役割を区社協が担わせていただければ、と考えています。

第五十七回全日本

手をつなぐ育成会全国大会

分科会レポート

第一分科会

【育む】

第一分科会では、早期療養について、特別支援教育の現状と課題について、障がいの多様化と教育のあり方について、家庭と学校の関わり方について、障がいの特性にあつた「学び」を考える等を課題に提言、討議されました。最初に「明るく元気に働く大人になります」と「自己決定」が出来る子になる、育て方と支え方をテーマに川崎市自閉症児者親の会会長の明石陽子さんが基調報告されました。